

持続可能な社会の実現に向けたサステナブルファイナンスのあり方

国連が 2015 年に採択した「持続可能な開発目標 (SDGs:Sustainable Development Goals)」では、私たちが直面するグローバルな諸課題の解決を目指し、2030 年までに各目標・ターゲットを達成することを掲げている。また 2020 年、政府は 2050 年までに温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする、カーボンニュートラルを目指すことを宣言した。これらの目標まで年数も残り少なくなってきた中で、いまだ達成度には課題が残っている。

その中で、「経済」という観点からも取り組みは行われている。持続可能性の要素を資金使途や取引条件に組み込んだサステナブルファイナンスは市場規模を拡大していたが、現在は反 ESG への奔流が一気に強まる可能性も示唆されている。

これらの背景を踏まえ、本テーマでは持続可能な社会の実現のために、以下の 3 つの論点からサステナブルファイナンスはどうあるべきか議論してもらいたい。

【論点 1】サステナブルファイナンスにおける ESG 投資とインパクト投資の展望

本論点では、サステナブルファイナンスの定義を再確認し、ESG 投資とインパクト投資の現状と課題を整理してほしい。日本の現状を比較し、今後のサステナブルファイナンスの展望について、また展望を踏まえ、持続可能な社会に向けての提言を議論してもらいたい。

【論点 2】機関投資家の果たすべき役割

本論点では、機関投資家の果たすべき役割について検討してほしい。その際、検討した役割を果たす上での現状課題を整理し、これらの課題を解決するためにどのような施策が考えられるのかについての提言を議論してもらいたい。

【論点 3】ESG 関連金融商品の分析と今後の動向

本論点では、近年拡大している ESG 関連金融商品の現状と将来の動向について分析してほしい。その上で、社会性・経済性を考慮したうえで持続可能な社会を実現するために、今後どのような商品に注力していくべきかについて考え、提言してもらいたい。また、投資対象の拡大が投資戦略にどのような影響を与えるのか、今後の市場の発展性を議論してほしい。

【留意点 1】反 ESG に関して

論点 1 に関して、特に 2025 年初めにトランプ氏が大統領に就任した米国をはじめとして、反 ESG の動きに注目が集まっている。本論点では、それら反 ESG に関して触れつつ、サステナブルファイナンスの展望を議論してほしい。

【留意点 2】機関投資家のあり方に関して

論点 2 に関して、アセットオーナー、アセットマネージャーそれぞれの観点から議論を行ってほしい。また、機関投資家のあるべき姿を規定したガイダンスであるスチュワードシップコードについて言及してもらいたい。

【留意点 3】企業、評価機関のあり方に関して

論点 2 に関して、機関投資家の果たす役割や課題を中心に論じるが、その議論の中で企業や評価機関に触れることは避け難い。したがって、企業や評価機関に関する言及は許容されるものとする。ただし、その際は機関投資家との関係性を明確に示し、論点の焦点が機関投資家にあることを前提として議論を展開してもらいたい。